

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：平成31年3月29日

事業所名 はあとキッズ小郡南

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	7		移転し以前に比べ十分な広さをもつことができた。	運動レクなどしっかり体を動かせるスペースが確保してある。
	2	職員の配置数は適切であるか	7		現段階では足りている。	1年後などある程度中期的なスパンで人員体制を検討する必要がある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	6	1	室内の段差はなく動きやすい。	玄関先とトイレの一部には見直しが必要。
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間になっているか	7			消毒や掃除を細かく行なっている。児童が落ち着いて過ごせるようパーテーション等を設置している。手洗い専用の水洗を設けたり空気清浄機も設置している。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	6	1		毎朝ミーティングを実施し、日々の振り返りはできている。
	6	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7		年に一度アンケートを行ない、その内容をもとに保護者会を実施している。	保護者の意見を取り入れ、その都度改善に努めている。
	7	この自己評価の結果をホームページ等で公開しているか	7			法人のホームページで公開している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	4	3		今後、第三者による外部評価システムの導入を検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	7		障害部門の研修を月に一度実施している。	毎月、法人内で複数の研修会が開催されており、職員は受けたい研修に自主的に参加している。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を作成しているか	7			子ども、保護者のニーズ及び今後の就労・生活において必要となり得る課題を児童の特性、社会のニーズとも照合しながら作成している。
	11	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われているか	7			計画に準じた支援を基本としているが、随時見直しを行なっている。
	12	活動プログラムの立案をチームで行っているか	7		毎朝のミーティング、翌月のレク決めなど定期的を実施。	同一メンバーでの立案となるため、斬新なアイデアが生まれづらいので職員全体で取り組んでいく必要がある。
	13	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	7		大イベント(例:リレーマラソン)へ向けたプログラムも随時盛り込み変化と意識付けを行っている。マンネリ化しないよう、案を出し合っている。	引き続き、各担当を付けて動く。プログラムに関しては、定期的に打ち合わせをしマンネリ化を防いでいく。
	14	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	6	1	平日にできない内容などは、長期休暇に取り入れるように工夫している。	個別の課題という視点においては模索中。決め細やかで段階的な課題設定のレベルに至るよう検討していく。
	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を作成しているか	7			児童の状況に応じて、個別と集団を組み合わせる計画を作成している。また、個別の支援をしながら、集団で活動できるようにルールづくりにも努めている。
	16	支援開始前には職員間で、その日の支援の内容や役割分担について確認しているか	7		前日の反省も含め、ミーティングをしっかりと行っている。	役割以外の部分においても臨機応変な対応ができるよう職員個々の底上げが必要。
	17	支援終了後には、職員間で、その日の支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	7		基本朝礼時に情報共有や申し送りを行っているが、重要な案件についてはその日のうちに周知徹底を行っている。	引き続き、職員間で情報共有できるよう対応していく。
	18	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	7			事象の記録以外にも今後の対策、指導方法等についても記述している。
	19	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	7			年に2回実施。モニタリングの頻度を検討する。

	20	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	7		ガイドラインに関する職場内の研修を実施している。	複数組み合わせ、かつ周辺要素も考慮しつつ支援を実施。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	7			管理者への負担が極端に多いように感じられる。他の職員も対応できるよう、情報共有と報連相の徹底を行っていく。
	22	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	7		保護者情報も含めた共有・発信・フィードバックを学校側と適宜行っている。	日頃より連絡をとりあっていて、急な変更にも対応できている。
	23	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、保護者等を通じて、子どもの主治医からの指示、その他必要な情報を把握しているか	6	1		保護者を通じて主治医からの情報も収集。児童の成長等に応じたメンテナンスにも留意している。アセスメントシートにも詳しい詳細が記載されている。
	24	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか(放課後等デイ)	7			担当者会議にて引継ぎが行なわれている。
	25	移行支援して、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか(児童発達支援)	5	2		相互関係に努め関係構築を図っている。
	26	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	3	4		未だ移行する児童はいないが、その時は情報共有に努める。
	27	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	5	2		必要に応じて情報交換等を行っている。
	28	保育所や幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか(児童発達支援)	7			引き続き、長期休み日を利用し、定期的に外部と交流できる機会を設ける。
	29	放課後児童クラブ等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか(放課後等デイ)	7			引き続き、長期休み日を利用し、定期的に外部と交流できる機会を設ける。
	30	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	7			積極的に参加し、状況把握と情報の精度を高めるよう研鑽を積んでいる。
保護者への説明責任等	31	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	7		連絡帳や送迎時、親子行事等で伝えている。	仕事等の関係で面談の機会が極端に少ない保護者もおられ随時情報共有できない場合もあるが、LINEを導入したことにより、それを使用しやりとりできるよう工夫している。
	32	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等に関する支援を行っているか	5	2		体制は整えている。
	33	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	7		契約時に説明	より解り易く細分化された内容となるよう注力していく。
	34	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	7			本事業の運営における事例に加え、子どもをもつ職員の実体験に基づく助言も行なっている。
	35	保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	7			親子行事を定期的に開催している。
	36	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	7		重要事項説明書に苦情窓口、苦情申立先、法人の第三者委員の住所・氏名・電話番号を掲載	原則的には苦情発生の日当日中に完結できるよう組織で迅速に対応を行なう。その後は、職員で対策を考え周知徹底する。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	7		事業所のタブレットで保護者毎に必要な情報の送信が可能	活動概要は毎月発行のおたよりに網羅。この度よりLINEも活用することとなった。

	38	個人情報に十分注意しているか	7		職員手帳に明記	コンプライアンスの観点から最も留意すべき事項として取り扱っている。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7		この度、LINEも導入し、伝えやすい方法にしている。	SNSの使用、手話や筆談を用いている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	7			冬祭りを実施したりと、地域に開放して当方に対する認知度の向上を図っている。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	6	1	緊急時対応マニュアルを掲示している。	マニュアルの周知はなされていないが、保護者等で開示するなど、周知できるよう工夫していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	7			水害・火災・地震について、定期的に訓練等を実施。
	43	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7		事業所内や法人でも定期的に研修を実施。	引き続き、定期的に研修を行うなどし、適切な対応ができるようにする。
	44	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	7		事業所内や法人でも定期的に研修を実施。	支援計画に記載し、同意も得ている。理由や時間も記録している。
	45	事前に、服薬やてんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。 また、食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	7		職員の目につくところに掲示している。	食物アレルギーのある児童についての摂取の可否を具体的な食品(原材料)名を挙げて一覧表を作成・掲示している。
	46	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	7		毎月会議を実施。	児童対応、運転、運営、施設環境等要因は様々だが共有・改善し撲滅を目指す。